

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ **学校力向上プラン【学校評価書】**

堺市立 大浜中学校
校長 濱谷 寛

中学校区におけるめざす子ども像													校長 濱谷 寛	
主体的に学び、夢に向かって努力し続ける子														
令和5年度 重点目標 「 学力・体力・人間力の向上 」 ○ルールや規律が保たれ、保護者・地域から信頼される学校づくり。 ○チームワークを大事に、情熱・気迫・冷静な判断をもとにした教育活動の展開。 ○自分の存在を大事にでき、相手を思いやり、さらに一步前向きに自ら取り組む生徒の育成。														
「確かな学び」の現状 授業中の学びに向かう姿勢は年々良くなってきているものの、まだまだ落ち着きがなく、授業に集中できない生徒も多く、基礎学力が低い生徒もいる。アンケート結果から、自尊感情が低いことや授業中の集中に課題のある生徒も多いが、年々ポイントアップしている傾向を踏まえ、今後も学校での取り組みを通して、達成感を体験させて自尊感情の醸成を図りたい。また、教職員がユニバーサルデザインを意識した授業の実践を根気強く継続し、生徒が学びに向かうための分かりやすい授業とともに基礎基本を徹底し、学力向上を目指したい。										「豊かな心・健やかな体」の現状 マナーや規範意識が低い生徒もあり、友達や教師に対して不適切な言葉遣いが見受けられることもある。「ことば」に対する意識をしっかりと持ち、自分の存在を大切にし、相手を思いやる気持ちや態度を醸成するためにも、道徳教育に力を入れる。また、正しい人権感覚を培うためにも教科指導を含め学校生活全般において人権教育に関連付けて指導していく。 令和4年度実施の新体力テストの結果、123年男女において全国平均を下回っている種目が多い。全身持久力の向上を意識し、取り組みの工夫をした体育授業を行っていく。				
大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～12月)	達成状況 (年度末)						
								自己評価		学校関係者評価				
確かな学び	基礎学力の向上	学習習慣の定着、反復練習、生徒個々に応じた指導などを通じて基礎学力の向上を図る	★「めあて・振り返り」を示す。また、一人1台のPCを活用して学習に興味関心を持たせる 1年英語、2年数学における少人数指導（習熟度別・均等分割）を実施する	職員アンケート 「PCを使っている」結果肯定率 「少人数指導はわかる」の結果肯定率前年度比	実施状況 教育自己診断 教育自己診断	年度末 年度末	○ ○	各教科で実施している。 ICT活用のための校内研修を実施した。 1年生英語、2年生数学で習熟度別授業を行っている。	○ ○	・職員のICT活用の意欲向上につながった。 授業でPC活用が定着してきている。 ・少人数授業が生徒の学習意欲につながっている。各学年少人数授業を継続したい。	○ ○	少人数授業は生徒の学習意欲や理解度につながっている。今後とも継続してほしい。 生徒にデジタルツールを使って興味関心を持たせる取り組みを。		
	授業改善	基礎基本の定着をベースに「深い学び」を目指した授業力の向上と改善	年間を通して、朝学習を実施し、授業では基礎学力の定着を図る	チャレンジテスト度数分布3割未満の生徒数20%以下	チャレンジテスト	年度末	○	各学年で朝学習を実施。 授業において復讐プリントの取り組み。	△	・チャレンジテストにおいて1年生数学、2年生理科で3割未満の割合が非常に多い。 分かる授業の取り組みを行う。	△	基礎学力の定着と学習意欲の向上を図り、すべての生徒にとってわかる授業の実施をお願いしたい。 生徒の発表を肯定的にとらえ積極的に授業に取り組む生徒の育成に力を入れてほしい。		
			●「考える、自分の考えを書く、発表する、話し合う」をキーワードにして授業改善に取り組む	「自分の考えを書いたり発表する」のアンケート結果肯定率前年度比	堺市CBT調査	年度末	△	各教科会で検討・実施。	△	・減少傾向にある。各教科で検討し改善を図る。	△			
			道徳授業の授業方法・評価についての研修実施	職員アンケート	実施状況	年度末	○	学年ごとに検討・実施。 堺市道徳部会研究授業に参加	○	・2年生の学年で泉北地区道徳研究協議会の公開授業に参加した。	○			
	豊かな心・健やかな体	笑顔あふれる学校	心豊かな「居場所と出番」のある学校	各学年の取り組みを通して、生徒が達成感を持ち、自分に自信が持てるようにする	「自分によいところがある」アンケート結果肯定率前年度比	堺市CBT調査	年度末	○	学年ごとに発達段階に応じた取り組みを行っている。	○	・行事等を通して成功体験を重ねる中で自己肯定感の醸成が進んでいる。	○	自分自身の価値観を構築できるように先生方のバックアップをお願いしたい。 図書館来館者数の増加は評価できる。	
「ホッと空間」を継続し、自主学習の場や憩いの場として活用する				休み時間、昼休み、放課後、テスト前などの生徒の活用状況	観察	通年	○	生徒の活用状況は非常に良い。 昼休みに将棋の場になっている。	○	・ホッと空間を昼休みに将棋や読書、放課後は学習の場として活用している。 ・コロナの制限が緩和され、来館者数は格段に上昇したが、貸出冊数は大幅な減少になっている。	○	△		
図書館開館の回数を増やし、来館者を増加させて本に接する機会をふやす				図書館来館者数前年度比	図書館サポーター活動報告	年度末	○	来館人数・貸出冊数を集計中。	△					
生活習慣の改善		生徒の学習・生活習慣の定着	朝の遅刻、チャイム着席に対する行動を正し、授業を大切にする意識を高める	「学習への集中」アンケート結果肯定率前年度比	堺市CBT調査	年度末	○	朝の遅刻・チャイム着席の取り組みを継続的に行っている。	○	・始業前の校歌、授業前の音楽により生徒の時間に対する意識が向上している。授業の集中も向上している。	○	音楽が流れることで生徒が自然と時間や自身の行動を意識できているのは良いと思う。 学習・生活習慣は家庭環境等の影響も多い。スマホ問題や睡眠時間確保など学校の取り組みにも大きな期待をしている。		
			「7つのやくそく」の特に「早寝、早起き、朝ご飯」について生徒保護者に啓発する	「寝る時間」「朝ごはん」アンケート結果肯定率前年度比	堺市CBT調査	年度末	△	小中3校合同生活調べを年間2回行っている。	△	・数値にばらつきがあり今後傾向を探る。	○			
開かれた学校	情報発信	家庭・地域への積極的な情報発信および中学校区として9年間を見通した児童生徒の育成	学校だより・学年だより・PTA広報・HP・オープンスクール等を通して積極的に情報発信	定期的な発行、実施、更新。「学校の様子を知ることができる」の項目	実施状況 教育自己診断	年度末	○	学校だより・HP・オープンスクール等を計画通り実施している。	○	・学校だより、HPなどでの情報発信はできたが保護者の来校機会はまだまだ不十分である。	○	学校だよりやHPでの情報発信を今後とも継続してほしい。		
			小中連携（共通の課題や目標・相互授業参観・合同研修）	職員アンケート	事後アンケート 教育自己診断	年度末	○	小中相互参観・夏季小中合同研修を実施した。	△	・小中連携から学校群への移行に向けて取り組みの具体化を図っていく。	○			
校長より（年度末） 新型コロナの制限が緩和される中、コロナ前の学校生活に戻ってきた。自己肯定感と規範意識の向上を目指し、体験学習の中で成功体験を積み重ねる取り組みを実践していく。また、特に本校の課題である学力向上を目指し、教職員の授業改善に取り組んでいく。生徒一人1台のPCの活用にも力を入れ、子どもたちが自ら学習に取り組む環境を整備していく。「道徳教育」「人権教育」においては、人間力向上を目指し、正しい判断と行動がとれる生徒の育成に力を入れる。									学校関係者評価者から（年度末） 中学生が一番難しい時期ではあるが「子ども像」や「重点目標」を軸に生徒1人ひとりに光を当てる大浜中の取り組みに今後も期待します。 様々な取り組みは評価できる。効果のある取り組みの焦点化などを今後検討してもらいたい。					